

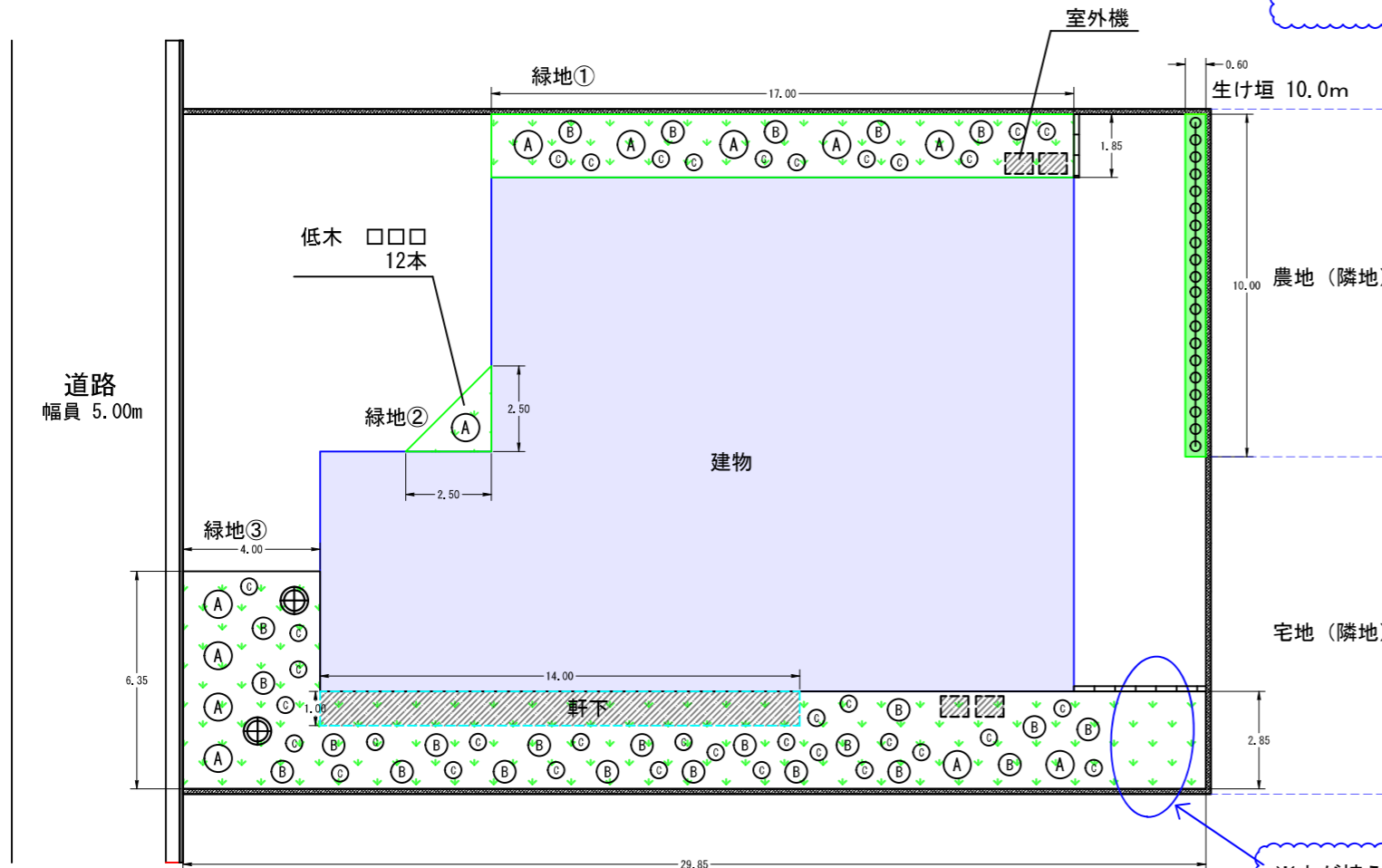
緑化計画図 記載例

縮尺 1:200 (A3)

※印は図面の補足事項

★本例…建築敷地600㎡、国分寺崖線区域外(緑地率12%、緑地・空地率15%)

※農地と隣接している境界部分には、生け垣が必要です。
垣根は四ツ目垣、植樹間隔は2本/1m程度



※緑地面積(植栽可能な土地の面積)と
緑化面積(植栽を換算した面積)は、どちらも
基準値を満たす必要があります。
また、緑地部は必ず緑色に着色してください。

※緑地空地率が設けられており、空気を設けない場合、
緑地面積、緑化面積ともに必要空地率を加えた分だけ
確保する必要があります。

(ex1.) 緑地率12%、緑地空地率15%で空気を設けない場合、
緑地面積、緑化面積が15%分必要

(ex2.) 緑地率12%、緑地空地率15%で空気を2%設ける場合、
緑地面積、緑化面積が13%分必要

(ex3.) 緑地率12%、緑地空地率15%で空気を5%設ける場合、
緑地面積、緑化面積が、緑地率分の12%必要
(公開空地は緑地の代わりにはなりません)

※木が植えられていなくとも、植栽された緑地と
一体であれば緑地面積とみなします。逆に、
木が全く植えられていない区画は、植栽可能
であっても緑地面積として計上することが
できません。

緑地としては換算されますが、できる限り
緑地にはまんべんなく木を植えるよう
心がけてください。

※左記のように、
・緑地面積の算出
・緑化面積の算出
・緑地、緑化面積ともに基準値を満たしていること
が分かる図面の書き方を原則とします。

※室外機(壁掛け式含む)、敷石、軒下、人孔などが緑地計算
面積内にある場合、緑地面積から控除してください。

※実際は、緑地面積を検査時に計測できるよう、
全て三斜等で計算してください。
計算表、計算図面の別添が望ましいです。
計算が少量であれば、同図面内に配置してもかまいません。

なお、計算で算出した最終的な合計緑地面積・緑化面積は、
小数第三位を切り捨て、基準面積は小数第三位を切り上げる
ことを原則とします。

判定

建築敷地 600㎡
必要緑化面積 $600\text{㎡} \times 12\% = 72.00\text{㎡}$
必要緑地・空地面積 $600\text{㎡} \times 15\% = 90.00\text{㎡}$

緑地面積 $122.72\text{㎡} > \text{必要緑地面積} 90.00\text{㎡}$ OK
緑化面積 $129.00\text{㎡} > \text{必要緑化面積} 90.00\text{㎡}$ OK

緑地面積算出(緑地面積求積表)

緑地① $17.00 \times 1.85 = 31.45$
控除... $0.48 \times 2 = 0.96$ (室外機 2台)
 $31.45 - 0.96 = 30.49\text{㎡}$

緑地② $2.50 \times 2.50 \times 0.5 = 3.12\text{㎡}$

緑地③ 99.07㎡ (三斜計算)
控除... $0.48 \times 2 = 0.96$ (室外機 2台)
 $0.50 \times 2 = 1.00$ (人孔 2箇所)
 $1.00 \times 14.00 = 14.00$ (軒下)
 $99.07 - (0.96 + 1.00 + 14.00) = 83.11\text{㎡}$

生垣 $0.60 \times 10.00 = 6.00\text{㎡}$

合計緑地面積 $30.49 + 3.12 + 83.11 + 6.00 = 122.72\text{㎡}$

※図に表記しきれない低木は、引き出し線のみで
【低木 □□□ 12本】のように図面に記載し、
配置位置を書き込まないことが可能です。
(本図面例の緑地②)

緑化面積算出

図表記	種別	樹高	樹種	本数	換算面積
Ⓐ	高木	H=2.5m	○○○○○○	12	$12 \times 3 = 36.00$
Ⓑ	中木	H=1.5m	×××××	24	$24 \times 2 = 48.00$
Ⓒ	低木	H=0.6m	△△△△	36	$36 \times 1 = 36.00$
	低木	H=0.2m	□□□	12	$12 \times 0.25 = 3.00$
	生け垣	H=1.0m		10m	$10 \times 0.6 = 6.00$
	合計				129.00㎡